

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社エスランケア		
事業所名	グループホームささゆり		
所在地	岐阜県瑞浪市南小田町3丁目300番地		
自己評価作成日	令和6年9月11日	評価結果市町村受理日	令和6年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600287-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの意思を第一に考える。世間話をしてお互いに理解しあえる関係性を作る。季節感を取り入れる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は利用者がメリハリのある生活ができるよう、散歩、体操、読み聞かせを日課にしている。外に出たい利用者がいつでもすぐに外に行けるよう、玄関のそばに、帽子を準備している。医師・家族に相談し、周辺症状の薬を少しでも減らす努力をしている。外国人職員とコミュニケーションを取りやすくするため、申し送りをノートに記入する方法から、タブレットに変更したり、食事を作りやすくするため、業者から献立付き食材購入するようにした。職員の希望を聞き、勤務時間を変更したり、夜勤ができない職員も、常勤となれるよう、勤務体制の見直しを検討している。管理者が、利用者が笑顔で居心地よく生活でき、職員が働きやすいよう常に考えている事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は額に入れて掲げてあります。実践出来ているスタッフと出来ていないスタッフがあります。しかしまだ全体に浸透していません。	何かに迷うことがあった時には、理念の「笑顔で暮らせる居心地の良い家を目指す」に、立ち返るようにしている。職員がいつも見られる所に理念が貼ってある。新入職員にも、理念について話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段は散歩に出た際の挨拶や会話を楽しんでいます。地域のお祭りの際には御神輿に施設の駐車場に来てもらい、子供たちに利用者さんが手渡しで御菓子を配っています。	地域で秋祭りがあると、子供神輿が来てくれ、利用者が包んだお菓子を渡している。自治会の寄り合いに参加し、地域の行事を教えてもらっている。散歩に出かけた際、知り合いと話をしたり、野菜やお菓子をもらったりしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナから会議を行っていません。やらなければならないことが多く最低限のサービスしか提供できていない。禁止事項について個別に注意する程度で更なる高みを目指してはいません。	現在、運営推進会議を行えていないが、メンバーを確認し、再開予定である。	地域と関わりが強いことを活かし、再び運営推進会議の実施を期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと空き状況を共有したり、近況を伝えたりはしています。密に協力関係を築けていると思います。	地域包括に相談し、ボランティアを紹介してもらうことが出来た。市から生活保護の利用者の相談を受け、受け入れた。何かあると、市に出向き相談している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しますが、日中は各部屋からも外に出られるようになっています。ベッドサイドも起き上がる際に掴まれる程度の柵のみで転落防止にも役立たない程度です。	玄関を施錠せず、利用者が出かけたい思いを尊重し、その都度散歩などで対応している。毎日体操や屋外散歩、紙芝居などの活動を実施し、気分転換を図っている。身体拘束についての研修などは行えていない。	身体拘束の防止にむけて、定期的な研修や議事録などの記録を用意し、身体拘束防止にむけての取り組みを更に深めることを期待したい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はありませんが身体的にも心理的にも経済的にもありません。ネグレクトもありません。それに繋がりそうな行為は未然に防ぎます。	管理者は、職員に対して、伝え続けることが大切と考えている。スピーチロックがなぜいけないのかを都度職員に話をしている。医師・家族にも相談し、薬を減らす努力をしている。研修などの機会がまだ無い。	虐待防止の取り組みについても、研修体制や議事録作成など整え、虐待防止にむけての取り組みを更に深めることを期待したい。

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会も話し合いも行われていません。日常生活自立支援事業と成年後見制度の違いも解っていないのが現状です。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。理解しきれなかったことや、新たな疑問が生まれても即座に電話やLINEで対応出来る体制が整っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は管理者や職員には共有し、サービスに反映させています。外部に発信するようなことはしていません。	家族には、入所時や面会時に意見を聞いている。家族が持参した利用者の嗜好品を食べてもらっている。家族の事情に合わせて面会時間も柔軟に対応し、直接意見を聞くことを大切にしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会としては設けていないが、常に現場で意見や提案を聞いています。そして出来る限りの反映や意見のすり合わせを行っています。	管理者と一緒に職員と働き、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。シフトの組み方も職員の希望を取り入れている。どの職員でも調理がしやすいように、業者から献立付き食材を購入するようになった。職員からの意見ですぐに対応できることは出来るだけ早く対応している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務状況の把握以外の項目は出来ていません。やらなければならないことをこなして行くだけの仕事になってしまっています。時間外労働は一切ありません。	定年制はなく、個人のできることに合わせ、時間・仕事内容を話し合っていて決めている。夜勤をしなくても常勤になれるなど、勤務体制の見直しをする予定である。夜遅くなるのはつらいとの意見を聞き、遅番の出勤時間を変更した。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部の人間以外は研修等は一切受けていないので介護の本質が浸透していません。スタッフ間でも知識の差が激しいので、出来るスタッフが疲れてしまう。力量の底上げが今後の課題です。	日本語で読む、書くが苦手な外国人職員に配慮し、タブレット入力を取り入れ、理解しやすくしている。会社として指示を出した研修は、業務として参加することができ、費用を事業所が負担している。	

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は福祉祭りの準備や片付けで顔を合わす程度です。相互訪問は今後やってみたいと思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんに合わせて出来る範囲で手伝いをして貰っています。畑や料理に付いて相談をしたり助言をいただいたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	余暇活動やレクは何をしたいか相談します。おやつや食事の時間も一応決めてはありますが、本人が食べたい時に食べてもらっています。	お風呂介助の時や、10時と15時のお菓子の時間に話を聞いている。難聴の方には、ジェスチャーで伝えたり、意思を伝えるのが困難な方は、表情から思いを汲み取っている。意向を言いやすい、環境を作っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの訴えがあった際は出来る限りの協力をしています。ご家族にも協力していただいています。	プラン作成時、職員に普段の様子を聞いたり、家族の意向を尋ねたりしている。主治医には口頭で注意点や助言を確認している。計画書の確認ができなかった。	意向の把握からケアプランの同意までのケアマネジメントの流れを再確認され、記録に残してケアに反映されるように期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに記入し、2棟間での情報交換も行っています。誰かの気づきをスタッフ全員で共有しています。	利用者のことで、気になることがあると、日々の業務の中で話し合い、その都度、変更している。職員が情報を共有できるように、申し送りに、タブレットを使用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんからの訴え次第で臨機応変に対応しています。心配や不安を取り除くことが信頼関係構築の第一歩だと思っています。	家族が対応できない場合に、通院支援を行っている。利用者が、自宅の家族に会いに行くために、送迎支援を行うなど、希望があれば聞いている。遠方の家族には通信アプリを利用し、様子を報告、相談を受けている。	

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉祭りや秋祭りへの参加は行っています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出ています。かかりつけ医が市外の場合は家族に通院支援をしてもらっています。2週間に一度訪問診療のDrがみえるので通院が難しい方は全員診てもらっています。	かかりつけ医の受診は家族送迎を原則とし、受診時は、利用者の普段の様子を家族に伝えている。訪問診療利用の方は、診察時に直接主治医に相談したり、助言を求めたりしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院設備があるような大きな病院とは関係作りが出来ていません。利用者さんが入院した際にはすぐに家族が来れない場合は、家族に代わり手続きや着替えの手配を行います。	入院時は、サマリーを病院に送っている。退院前に利用者に会いに行ったり、家族に入院中の様子を聞いたりしている。施設でできる事、できない事を、家族と病院に説明している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所した時点で、認知症などが徐々に悪化して場合によっては当施設の適応外になるかも知れない事は説明します。地域の特養とは連携が取れています。	入所時や入院時に、意向の確認をしている。食事量の低下や歩けなくなった時には、次の施設を紹介している。最期まで支援したいという意見もあり、職員体制が整ったら、看取り介護をする予定である。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ新しいスタッフも多くコロナの関係もあり救急法の講習を受けて無い職員もいます。今後は消防署に協力してもらい、定期的な訓練を行っていきたいです。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、近くの公園に誘導しています。消火器の使い方の講習と実践は行っています。	避難訓練や消火器訓練を行っているが、記録の確認ができなかった。水害時には、少し高い所への避難の確認をしている。カップ麺や袋麺、缶詰め、皿を備蓄し、期限が近くなると、利用者と実際に食べている。	

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは勿論のこと、居室に職員が入る際も言葉掛けをするようにしています。トイレ介助も言葉かけをしてからズボンを降ろす手伝いをしています。	利用者が話したがらないことは無理に聞かないようにしている。トイレの声掛けは、周りに聞こえないように小声でしている。部屋に入る時には、声掛けをしてから入っている。気にされる利用者には同性介助をしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクで何をやりたいか、散歩へ行きたいか、などは本人の意向に委ねます。何もやりたくないという意見も本人の希望であれば尊重します。一応誘いの声かけは行います。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やオヤツなど、一応時間は決めてあり声かけはしますが、最後は本人の意思に任せます。30分や1時間遅れで食べて頂く事もあります。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや皆の手の消毒、皿やお盆を拭いて貰うことはあります。「手伝わせてくれてありがとう」などの嬉しいお言葉も頂いてます。	野菜の皮むき、お皿拭きや、テーブル拭きをしている。希望があれば飲酒することもできる。誕生日には、希望を聞き、料理やおやつを決めている。ちらし寿司や七草がゆなど行事にあわせ提供している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場は特に水分補給をしてもらうように心掛けています。食事も野菜を多く摂って貰うよう声かけや刻みを行っています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る人には声かけと見守りをし、出来ない人には職員が手伝わせていただいています。	毎食後、歯磨きをしている。必要な方には声掛けをしている。義歯は夜に洗浄液で消毒しているが、嫌がる利用者にはつけたままで磨くなど、できるタイミングで口腔ケアを行っている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立している人には要所所で声かけをし、そうでない人は定期的にトイレへ行ってもらうようにしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は1日おきに入って貰っています。時間帯は職員の都合で決めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうにしている利用者さんがいれば、居室に連れて行くようにしています。朝食やオヤツの際もまだ眠いようなら声かけのみでそのまま寝てもらいます。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し医師の指導の通り用法用量を守り、飲むべき時に本人に渡します。本人と一緒に確認をします。降圧薬を飲んでいる人の血圧の変化は毎日チェックします。下がりすぎた場合は医師に連絡し、指示を仰ぎます。	家族から薬を受け取る薬に変更がある時は、口頭や書面で確認し、申し送りで共有している。薬は一包化してもらい、名前、日付を読み上げ、確認している。薬について、疑問があると、薬剤師に連絡し、相談している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	福祉祭りに出展する貼り絵作品の制作や散歩、花の水やり等利用者さんのやりたい事を積極的に行って貰っています。	職員がアイディアを出し、作品作りを一緒にしている。家族に利用者の好きなことを確認し、入所後もできるようにしている。掃除や洗濯物畳みや片付け、花の水やりが日課となっている利用者もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候にもよりますが、出来るだけ毎日外の空気を吸ってもらうようにしています。行きたい所や会いたい人がいれば家族に相談し、希望を叶えるように支援しています。	ほぼ毎日散歩する習慣になっており、近所の季節の花を観に行くことができている。希望があると、県外や家族の自宅へ、外出・外泊をしている。選挙で投票したい希望の方は、職員が同行している。ウッドデッキにソファを置き、日光浴ができるようにしている。	

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブルのもとになるので所持してもらわないようにしていますが、皆さん持ってらっしゃいます。自分で隠して「盗られた」と騒がれるので一緒に探します。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば常識の時間内であれば電話をお貸しします。手紙はご家族から来たら返事を出す様に宛名書きや投函の支援をしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激はありません。散歩の途中で取った道端の草花やスタッフが持ってきた季節の花や実を飾る様にしています。	食事の時間はテレビを消し、音楽を流している。利用者が好む昔の画像を流すこともある。温度・湿度は加湿器を使用し、調整している。職員が考えた季節の飾りや、作品を飾っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングからウッドデッキに出て椅子に座って風を感じてもらったり、ソファでテレビを見ながら談笑されたりと、思い思い好きな様に過ごして頂いています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具を持ってきて頂く様に家族に説明してあります。特にご家族の写真等積極的に飾って頂く様にしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場は解りやすい様に大きく張り紙がしてあります。居室を忘れてしまう方の部屋のドアにも大きく表札が貼ってあります。リビングや廊下の壁にはもちろん手すりがついています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社エスランケア		
事業所名	グループホームささゆり		
所在地	岐阜県瑞浪市南小田町3丁目300番地		
自己評価作成日	令和6年9月11日	評価結果市町村受理日	令和6年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600287-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

張り絵などの作品作りを頻繁に行い、天気の良い日はなるべく散歩に行くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護に迷ったときは、事業所理念を思い出すようにと伝えている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	密な接触は行いませんが、散歩の途中などであいさつや、顔見知りの方との関わりを大切にしている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えていない。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取ることはないが、事業所の実情を簡潔に伝えたり、近くに行った時に挨拶をするようにはしている。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜、施錠をすることはあるがそれ以外の身体拘束はない。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ行き、学ぶ機会を持ち、再認識している。			

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で後見制度を学ぶことはあった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分納得していただけるまでは契約の締結を行わない。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを定期的にとるようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見はとても大切にしてい て、話しやすい人間関係を作ることを目指している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	本人の希望時間、希望休を聞いて働きやすい環境づくりを行っている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ行くように情報提供や時間をつくっている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行えていないが、外国人スタッフの交流会をする話がでてきているので実現させて同業者と交流できたらいいと思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の用意、掃除など簡単なことを手伝っていただき、そういった関係を作ろうとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をやりたいかの希望を聞いてそれに沿うようにしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今は家族を呼んだりすることはなく、少人数で行うようにしている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をつけて、一週間分を一覧できるようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢の家族や、遠方の家族の場合、通院支援や買い出しの支援をおこなっている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年から福祉祭りの参加を再開させ、作品作りを楽しんでいた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科と内科の間に入って情報交換や意見交換の手伝いをして適切な医療を受けられるように支援した。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供がやりやすいように、常に情報をファイリングして病院へ行くときは持参するようにしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にグループホームの事を理解するように最初の段階で説明している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急返事、パニックを起こすことも考えて、見やすいところにどうしたらよいか貼り付けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っており、避難経路や消火器の使い方を伝えている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに関しては基本的に敬語で対応していただき、フランクな時にはそれにあった対応をしている。			
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションが取れない方には「はい」「いいえ」で答えられる質問ををするようにしている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人が今日どのように過ごすのかはその人の希望を最優先にしている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全を第一に、自分の前だけでも机を拭く、手消毒のお手伝いをしてもらっている。			
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水が飲みたいと言われたらすぐ飲めるように準備していたり、希望者には寝るときに枕元に置いている。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。その人その人に合わせた支援を行っている。			

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合ったパッドやリハパンを家族に提案して使用するようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否されたときは時間をずらしたり、次の日に入浴していただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にしていただいているし、布団干し、シーツ洗いは定期的に行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一包化をお願いしているので用法、用量は間違えにくい、副作用については眠気や湿疹が出るものについては注意している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや畑の世話などの役割支援を行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が行きたいだけ外に行けるようにしている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ連れて行くことはできないが、お金を持たせて安心してもらうことはしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使い方がわからない時に使い方を教えたり、家族に電話をかけても問題ないか確認したりしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物に季節感を出したり、温度、湿度計を見てエアコンの温度を調節している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座れる場所を三つ作り、一つはサンルームなのでエアコンの風が寒いと言われる時に座られることがある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に新しいものを買って持ってくるのではなく、家にある使い慣れたものを持ってきてほしいということは伝えている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	柄のあるもの、回るものなどその人にあった椅子を選択している。		